

課題名：グローバル化による生殖技術の市場化と生殖ツーリズム：倫理的・法的・社会的問題

氏名：日比野由利

機関名：金沢大学

1. 研究の背景

近年、卵子提供や代理出産などの第三者が関わる生殖技術を利用するため、日本人がアジアの新興諸国へ渡航する現象が見受けられる。2008年には、インドで日本人男性が代理出産を依頼し、子どもが無国籍になったトラブルが世界中で報道された。これは、日本人による生殖ツーリズムの氷山の一角をなす事件である。他方、我が国では生殖補助医療の法規制はなされておらず、学会による自主規制に委ねられている。

2. 研究の目標

グローバルイゼーションや経済格差と規制格差にもとづいた生殖技術の「利用する側」と「利用される側」における実態を明らかにし、生殖ツーリズムがもたらす倫理的・法的・社会的問題を検討する。

3. 研究の特色

- ①アジアの新興諸国の実態を明らかにすることで、生殖ツーリズムにおける「利用する側」と「利用される側」について、包括的に考察することができる。
- ③女性や子どもの視点から生殖補助医療の在り方について検討を加える。
- ②優生思想や人体の資源化の過度の進行によって人間の尊厳が侵されるような社会が出現することを予防し統御する。
- ④我が国における生殖補助医療の適正な実施に向けた提言を行う。生殖ツーリズムに対する国のスタンスの確立とマニュアルの創出につながる。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

生殖補助医療の新たなパラダイムを形成し、少子高齢化社会に相応しい男女共同参画の在り方やそれを実現する社会設計の実現に向けて我が国が前進できる。

世界の生殖ツーリズムの現状

第三世界 (フィールド調査)		先進国	
インド	商業的代理出産が盛ん。法案提出。	フランス	代理契約は無効。
タイ	医療ツーリズムが盛んで、商業的代理出産も。法案提出。	ドイツ	不妊女性以外への卵子移植は禁止。
マレーシア	法整備が遅れている。	アメリカ	生殖のビジネス化が進む。
中国	禁止だが水商下で代理出産。	イタリア	代理出産、卵子提供は法律で禁止。
韓国	代理出産を規制する法律がない。	イギリス	商業的代理出産は禁止。
ロシア	商業的代理出産が行われている。	日本	ガイドラインによる規制。

生殖ツーリズム (reproductive tourism, fertility tourism):

自国内では得られない生殖に関わる医療やケア、安い費用を求めて渡航治療をすること。“Cross-border reproductive care.”ともいわれる。第三世界の経済振興手段の一つ。

先進国と第三世界の間の規制格差や経済格差が生殖ツーリズムを引き起こす要因となる。

日本からは、インド・タイ・マレーシア・韓国などへの渡航治療が確認されている。今後も、新たな国が渡航治療の対象となる可能性。

研究概要

生殖ツーリズム現象の実態を包括的に明らかにする。

- a) 「利用する側」における実態
- b) 「利用される側」における実態

生殖ツーリズムがもたらす倫理的・法的・社会的問題を考察する。

我が国での議論や国際的な協調体制の土台となる基礎資料を作成する。

生殖補助医療はどこまで許されるのか?

— 倫理的・法的・社会的問題 (ELSI) から —

先進国 → 第三世界

格差による技術利用のグローバルな促進

技術利用のすべり坂

生殖ツーリズム現象を踏まえた我が国における今後の生殖補助医療の在り方について検討

生殖ツーリズムの倫理的・法的・社会的問題 (Ethical, Legal and Social Issues) + 医学的問題

- ・ 渡航治療は医学的に安全か、どんなリスクがあるか?
- ・ 子どもの無国籍問題や国家間のトラブルにどのように対処するか?
- ・ 優生思想、エンハンスメントの促進、人の尊厳は?
- ・ 第三世界の貧しい女性が搾取されているのではないか?
- ・ 先進国のカップルの子どもが欲しいという願望はどこまで認められるべきか?
- ・ 技術による他者利用はどこまで許されるか?
- ・ 日本における法規制のあり方は?
- ・ 生殖ツーリズムの国際規制が必要ではないか?

研究の波及効果

